

2017年11月29日

報道関係各位

公益財団法人 国際高等研究所

国際高等研究所「けいはんな“エジソンの会”」第16回会合の開催について 今回のテーマ：防災・減災を克服するためのAIやIoT、ビッグデータの活用

公益財団法人国際高等研究所（木津川市、理事長 立石義雄、所長 長尾真）は、けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するための立地機関によるコミュニティの形成と、この街ならではの基幹技術・基幹産業の確立を目指して、「けいはんな“エジソンの会”」を開催しています。

具体的な「オープンイノベーション」の成功事例を造り込むだけでなく、けいはんな学研都市のコアとなる科学技術ドメインを確立することで、世界をリードするサイエンスシティを目指しています。この度、第16回会合を下記の通り開催いたします。

【開催概要】

◆日 時 12月26日（火）13:30～19:30

◆場 所 国際高等研究所レクチャーホール（木津川市木津川台9丁目3番地）

◆参加者 けいはんな学研都市の立地機関を中心に50名程度

◆プログラム

13:30-14:50 「レジリエントな防災・減災機能の強化の現状と展望」

堀 宗朗 東京大学地震研究所巨大地震津波災害予測研究センター センター長、教授
内閣府 SIP「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラムディレクター

15:00-16:20 「防災分野における人工知能の活用

～理研 革新知能統合研究センター 防災科学チームでの取り組み紹介～」

上田 修功 理化学研究所革新知能統合研究センター 副センター長

16:30-17:50 インタラクティブ・セッション

18:00-19:30 懇親会

◆参加費 5,000円 ◆定員50名、18歳以上

◆申し込み方法 高等研HP <http://www.iias.or.jp/communication/edison>よりお申し込みください。
※当会合は一般参加者を受け付けております。当会合開催の告知記事のご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。また、報道関係者の皆様もご参加いただけます。この機会に是非ご取材いただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

報道関係者の参加申し込みについて

別紙返信用FAX用紙もしくはメールにて、12月25日（月）までにご連絡をお願いします。

なお、報道関係者の皆様の参加費については無料です。

（本件に関する問い合わせ先）

公益財団法人国際高等研究所 広報課 森口 有加里

TEL: 0774-73-4000 FAX 0774-73-4005 携帯:090-4288-4001 E-mail: kouhou@iias.or.jp

○「けいはんな“エジソンの会”」の目指すところ

けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するため、高等研が知的ハブとしての役割を果たすとともに、立地機関の研究者や技術者のコミュニティを形成し、具体的な「オープンイノベーション」の成功事例の確立に寄与することを目指しています。

取組みの核となる科学技術シーズの領域を人工知能～AI とし、2017 年度からは、AI について具体的な出口を見据えた研究開発を実践するために必要な内容を掘り下げて提案していくことに主眼を置き、研究機関や企業に属する様々な立場にある方が、自ら AI を中心としたテクノロジーを活用し、具体的な製品、サービスを生み出すことができるようになるためのテーマ設定をしていきます。

具体的には AI とそれを取り巻く技術の最新動向を掘り下げて解説する「テクノロジー」編と、様々な分野における AI を駆使した最先端のソリューションや AI の活用に係る課題を扱う「システム・社会」編から、テーマを厳選してお届けします。AI を中心とした新たなテクノロジーがどのように活かされ、どのように新たなエコシステムが切り拓かれるのか、様々な分野の研究者や企業の皆様にも大いに参考にしていただけるものと期待しています。

○第 16 回会合の概要

自然災害の多く発生する日本において、我々の命を守るためにには、災害に対する事前の備えを行い、如何に早く察知し、実際に起こった時には如何に迅速に対応するかが求められており、被害を克服するために、AI や IoT、ビッグデータの高度な活用が大きく求められています。

第 16 回会合では、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）で、「レジリエントな防災・減災機能の強化」のプログラムディレクターを務めておられる堀先生より、AI を活用し、システムチックに防災、減災を実行するとはどのようなことかについて、日本としての統合的な取り組みの状況とともにご紹介頂きます。理化学研究所の上田先生には、人工知能研究の立場から、防災・減災に関わる人工知能の適用範囲とそれを支える最先端技術及び今後の展望についてご説明頂きます。

防災・減災における先進事例と今後の展望に触れていただくことによって、AI を中心とした新たなテクノロジーがどのように活かされ、如何に災害を克服していくのか、それらの取り組みがどのようなところに横展開可能か、分野を超えた研究者・技術者、企業の様々な立場の皆様にも大いに参考にしていただけるものと期待しています。

※レジリエンスとは、「被害を最小限に留めるとともに被害からいち早く立ち直り、元の生活に戻らせる」という考え方です。

○「けいはんな“エジソンの会”」の企画・運営を行う「企画運営委員会」（順不同、16 機関）

- ・ 研究機関：理化学研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所、量子科学技術研究開発機構、国際高等研究所
- ・ 教育機関：奈良先端科学技術大学院大学、滋賀大学、京都情報大学院大学
- ・ 企業：西日本電信電話株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、株式会社島津製作所、京セラ株式会社、オムロン株式会社、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、日本電産株式会社

○オブザーバー（順不同、9 機関）

- ・ 京都府、奈良県、木津川市、精華町、奈良市、国立国会図書館、関西文化学術研究都市推進機構、関西経済連合会、京都産業 21